

市長記者会見記録

日時：2018年 1月 4日（木）14時00分～14時30分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：平成30年の年頭にあって

【話題提供】かわさきスポーツパートナー 富士通フロンティアーズ優勝祝勝会の開催について（市民文化局）

<内容>

《平成30年の年頭にあって》

《かわさきスポーツパートナー富士通フロンティアーズ優勝祝勝会の開催について》

司会： ただいまより市長記者会見を始めます。

初めに、平成30年の年頭にあたりまして、福田市長からご挨拶をさせていただきます。また、引き続きまして、かわさきスポーツパートナー、富士通フロンティアーズ優勝祝勝会の開催等について、話題提供させていただきます。

それでは、市長、よろしく願いいたします。

市長： 改めまして、皆様、新年明けまして、おめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

去年は非常に明るい話題が多かった年でありますけれども、今年もそういう明るい話題が多い年になるように、私なりに全力を尽くして頑張ってまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

そのまま引き続いてよろしいでしょうか。

もう皆さん、ご存じのことですけれども、昨日、富士通フロンティアーズがアメリカンフットボール日本選手権第71回ライスボウルで三度目の優勝を果たしました。新年に当たり、さい先のよいうれしいニュースでございまして、ぜひ来シーズンも3年連続のジャパンXボウル優勝、そして、ライスボウル優勝をしていただきたいと願っております。

昨日の勝利を受けて、富士通フロンティアーズに対し、1月9日に川崎ルフロンにて優勝祝勝会を開催させていただき、そして、その会の中でスポーツ特別賞を贈呈させていただきたいと考えております。

私からの話題提供は以上でございます。

司会： ありがとうございました。

それでは、市政一般に関する事項も含めまして、質疑応答に入らせていただきます。

進行につきましては、幹事社様、よろしく申し上げます。

《今年力を入れたい施策について》

幹事社： 幹事社です。今年もよろしく申し上げます。

年頭の会見ということで、とりあえず市政運営における抱負というか、今年一年、まず、何に力を入れていくお考えがあるのかという、そのあたりからお聞かせいただければ。

市長： 今年は、特にこれ一つということではなくて、まちづくり系で大きなプロジェクトが幾つもの、大きな節目を迎えるものがたくさんありますので、そういう意味では、これから何十年先の川崎にとって必要な大きなプロジェクトが控えていると思いますので、そういった大切な判断もありますし、そういったところで間違いのない判断をしていきたいと思っておりますし、また、年末にもちょっとお話ししたかもしれませんが、今年はいろんな仕組みづくりをやっていく、まさに豊かさを深めるような取り組み、そういったものの仕掛けづくりを、仕組みづくりを仕掛けていくって変な言い方ですけども、そういう一年になるのかなと思っております。大切な一年になると思っておりますので、市民の皆さんとまさに熟議を重ねていきたいと思っております。

幹事社： 先ほどのお話の中で、まちづくりの大きなプロジェクトが幾つかあって、判断を誤らないようにと。これ、例えば、どういうものを想定しておりますか。

市長： 例えばですけども、地下鉄3号線、横浜市の実業の話でもありますけれども、川崎も大いに関わってくる部分も、今年、大きな動きがあると思っておりますし、道路の話も今年、また動きが出てくるんじゃないかと思っておりますし、それから、鷺沼の話もそうですし、民間ベースで言うと、これは私たちの判断ということではありませんけれども、川崎駅のA-2街区のあたりなんかのホテルも今年の春から着工し始めたり、いろんなプロジェクトが動き出しますので、そういった意味で、かなりビッグなプロジェクトが動くんじゃないかと思っております。

幹事社： 確認ですが、鷺沼というのは鷺沼駅の再開発の……。

市長： そうです。

幹事社： 市長おっしゃった、市としても判断を間違えないようにということと言うと、どの辺のお話をされているんですか。

市長： いろいろ関わっている部分がありますので全て、道路もそうですし、地下鉄もそうですし、鷺沼の案件もそうだと思います。

幹事社： あと、後段の豊かさを深める仕組みづくり、これ、具体的にはどういうこ

とが……。

市長： 具体的に言えば、公園の活用の仕方というのも、これまで勉強会を重ねてきて、庁内の勉強会をしてきていますので、そういった意味で、これから市民の皆さんと色々な議論をしながら、よりわくわくするような、そういった公園づくりだとか、あるいは、パーセントフォーアートの話の検討を開始することもそうですし、各地区の中間支援組織のあり方みたいなものもそうですし、そういうことは単に経済的なものだけではない、住民の皆さんと一緒に作っていくというのが、今年、大きな検討になっていくのかなと思っています。

幹事社： わかりました。あと、午前中に職員の方への挨拶をされている中で、仕事のやり方、仕事ぶりを見直していきましようというようなことを呼びかけていたと思うんですけども、市長ご自身も、みずからも見直すから皆さんも見直して、それによって市民の期待に答えていこうというような、そんなお話だったと思うんです。市長ご自身としては、今の仕事ぶり、どこに課題があって、どういうふうに見直さなきゃいけないかって、もしご自身でそう考えている部分があれば教えていただきたい。

市長： 確かに、私が情報を持っているということは大切なことなんですけれども、全部が全部把握するとなると、やっぱり限られた時間の中で限界があるとは思っていますし、より現地、現場主義と言っていながら、なかなか現場が見れていないこともありますし、もっと対話をしたいと思っても、なかなかその時間がとれないというのがありますので、そういったところに時間が割けるように、それぞれ、権限委譲じゃありませんけれども、任せるべきものはどんどん任せていかないとはいけませんので、それは私のレベルでもそうですし、それぞれの仕事の、部長さんは部長さん、課長さんは課長さんなりの仕事の仕分け方があるんじゃないかと思えますので、今日はそういった意味での話でございました。

幹事社： 現状だと、やっぱり市長なり幹部の方々というのは、ちょっと抱え込み過ぎというか、言葉は悪いですけども、そういう現状があるということですか。

市長： やっぱり各レベルの、課長さんなんかと話しても、手戻りというのが非常に多かったりすると言うんですね。いろんな目でチェックしていくという意味ではとても大切な作業ではあるんですけども、それがあまり過剰になってくると、時間のロスにもなりますので、時間のロスというか、慎重はいいんですが、仕事のやり方として、もう少し簡素な仕組みをつくり出さないと今の時代に合っていないんじゃないかと感じている部分が多いものですから、まずは私から変わる必要もあるし、以下、みんなで変えていきましようということになっています。

《前市議の政治資金収支報告書未提出について》

幹事社： わかりました。前回の会見から今回の会見までいろんなことがあったので、そのことに関する所感もお聞きしたい。公明党の市議が政治資金管理団体の収支報告、10年間提出しなかったということで、その責任をとって、自ら議員をやめられたんですけれども、これ、政治活動をやっている方にとってはイロハのイというか、当たり前のような感じで、なぜそういうことになってしまったんだろうと、皆さん首をかしげていたりするんですけれども、市長ご自身も毎年提出するものだと思うんですが、どうでしょうか、今回の事案に対する所感があれば聞かせていただければ。

市長： 私も内容を聞いて非常に驚いたのが、今、ご質問の中で言われたように、皆さん、首をかしげるといのは、えっ、何でという。普通に政治活動をしていると、それはあり得ないことなので、どういうふうなご判断だったのかといのは、なぜということしか、首をかしげてしまうといのか、みんな驚いたんじゃないですかね。関係者の方も非常に驚いていたといのは、非常に簡単な作業だし、簡単な作業といのか、普通の事務的な作業ですから、なぜという。ほんとうに頭の中、はてな、はてなはてなで。非常に真面目な方なので、ほんとに首をかしげてしまって、もったいない、残念な思いがしています。

幹事社： わかりました。

幹事社： 幹事社です。今年もよろしくお願ひします。今のこの問題について関連してなんですけれども、公明党の言い分としては、前年に選挙があつて、非常に複雑な処理があつたのでできなかったのではないかという推測があつたんですけれども、今、市長は簡単な作業とおっしゃられましたけれども、基本的にはそんなに難しくはない作業なんですかね。

市長： と思いますけども、それほど難しいことって発生するかなという。内容がわからないので申し上げづらいんですが、ただ、そんなに莫大な事務量という感覚は僕にはないといのか、私の事務所は結構な量になっているんですが、私も議員経験があるので、そんなに複雑なことはないと僕は思いますけど。

幹事社： ありがとうございます。

《2期目の取組について》

幹事社： また話、戻るといなんですけれども、2期目、本格的に2018年が始まってスタートを切るといことなんですけれども、1期目、選挙で2期目に向かう前の会見で、これから市政の信頼を確立するためにこれからの2期目に臨んでいくとお

っしやられました。2018年が始まって、改めて、どのようにそのような信頼を確立していくかなというところを、市政運営で確立していくかというところを教えてください。

市長： まず、いつも言っていることなんですけれども、市政というのは、私たちの日常生活で最も身近なところをやっているんで、まずは、当たり前のことをちゃんと当たり前で真面目にやろうという、こつこつ地道にみたいな、極めて当たり前のことをちゃんとやるということだと思います。それがまず大事で、そこもできないようだと、いわゆる市政の信頼が揺らぐというか。ですから、不祥事みたいな話だとか、残念なことがこれまでもずっと繰り返してきていますから、今日の職員向けのところでは、失敗はいいんだと。チャレンジすれば失敗もあると。ただ、凡ミスみたいな、チェックができなかったとか、個人情報取り扱いの基本的なことが抜けていたとか、そういうミスが信頼性を著しく失うことになるので、そういうミスはだめですよという意味で言ったつもりなんですけれども。だから、そういう基本的なベースになるところはちゃんとやるという。当たり前のことなんですけれども、そこは身近であるからこそ大切にしていかななくちゃいけないし、市民に寄り添っていけば、そういうことはないだろうと思うので、そこは私も含めて、みんなで意識していかななくちゃいけないんじゃないかと思っています。

幹事社： 今おっしゃられたことというのは、1期目の公約としては、例えば、給食の実施であったり、そういった大きなことがあった上で、2期目はわりと市民の目からわかりづらいようなことをこつこつやっていくとか、そういった認識でよろしいですか。

市長： そうですね。そういう意味では、先ほどのご質問の中で熟議を市民の皆さんと重ねていくというような仕組みづくりのところは、市民の皆さんとの議論がとても大切だと思います。ですから、その部分を丁寧にやっていくことが、ある意味、市民参加があり、市民参加があるところに初めて市民満足度がありということにも連続してくることだと思いますので、そういった設計段階からしっかり市民の皆さんにかかわっていただく。それを丁寧にやっていくことは、必須条件というか、ベースになるものじゃないかと思っています。何か勝手に決まっちゃったなみたいな話にならないようにやっていかないと、持続可能な仕組みにならないのではないかとはい思います。

《ライスボウルについて》

幹事社： ありがとうございます。話、変わるんですけども、ライスボウルのこと、

フロンティアーズが2年連続で優勝したというところで、市長は実際に足を運ばれたんですか。

市長： はい。Xボウルの決勝も昨日のライスボウルも行っていて、去年もそういう正月の過ごし方だったので、うれしいなど。今日、会見前に、過去4年間の年頭の1月4日の会見の資料を見ると、みんな、スポーツ特別賞の話なんですね。それも、フロンターレの個人だったり、あるいはフロンティアーズの優勝だったりするので、いかに過去数年、スポーツが川崎にいい話題を届けていただいているかのあらわれなんじゃないかと思います。ですから、フロンティアーズのメンバーにも言ったんですけど、また来年もよろしくねみたい。正月恒例になるようにぐらいの、そんな感じでした。

幹事社： ほぼ年末年始にかけて川崎市のスポーツの話題は非常に明るいことが多いなどと思っていて、フロンターレから続いて、今年、フロンティアーズで、しかも、スコアを見ると、点差もついて快勝だったかなと思うんですけど、実際見てみて、いかがでしたか。

市長： やっぱ昨日の試合を見ると、日大はうまかったですよね。甲子園ボウルのときも非常に興奮しましたが、日大の林さんですか。

幹事社： クォーターバックの。

市長： クォーターバック、すごいなど。点数は確実に社会人との力ってありましたけど、でも、大学アメフトの可能性はすごいなって。これからものすごい楽しみだなというのを。ですから、日大のキャプテンが今度、フロンティアーズ入りすると聞いていますので、ますます、いいんじゃないかなと。

幹事社： ありがとうございます。

幹事社から以上です。ほかにありましたら、どうぞ。

《スポーツ特別賞について》

記者： スポーツの特別賞のことなんですけど、格の違いがないというか、スポーツ特別賞以外に市として贈るものとして格付がないような状態だと伺っているんですけども、特別賞以外で何か特別な措置というものを追加で考えているものは、今のところ、ないのでしょうか。

市長： 過去には幾つかあるんです。幾つかというか、成田真由美さんの例があって、成田さんには違う形で2回お贈りしていると思います。ですから、そういう意味では、正直、成田さんにこれ以上のものがあるのかというときには、特別賞のもう一つの規

定という形であって、市長が認めた場合には云々という文言があるんです。それで、過去に贈っているケースもあります。ですから、それはケース・バイ・ケースで判断していきたいと思っています。

記者： わかりました。

《副市長の体制について①》

記者： もう1点、午前中の年頭の挨拶の中で、副市長がお二人の状態での年頭挨拶って、これまでどうだったのかわからないんですけども、改めて菊地副市長が退任されて、2人体制で年が明けたわけですけども、挨拶の中でも、前例にとらわれずにというようなお話もされていましたが、今のところ、3人目ということはどういうふうに考えておられるのか、改めてお考えをお聞かせいただけますか。

市長： 今日、年頭の挨拶、職員向けのが終わった後、副市長を含めた特別職で集まって、今年のことについていろいろ話をしたんですが、とにかく3カ月は2名体制だから、みんなで力を合わせて頑張っていかないと、なかなか厳しいよねという話はしたんですけど、ほんとうに来年年度というか、4月に向けては、ちゃんとみんなの役割分担をしっかりと決めて、ほんとうの意味での仕事の進め方改革ができるような執行体制を早く整えないといけないなどは、今日改めて思っています。

記者： わかりました。ありがとうございます。

《コミュニティ交通について》

記者： よろしくお願ひします。去年の話を少しお聞きしたいんですけども、菊地前副市長が退任される前の記者会見の場で、コミュニティ交通について若干触れられていまして、特に市の中部、北部、起伏が激しいところがあるので、コミュニティ交通への関心が高いという話題になったときに、山、坂があるから元気なんだと。心肺器官も筋肉も鍛えられるからいいんだと。川崎くらいの大きなまちで、交通が不便だからコミュニティ交通をやるというのは、ちょっとおかしいんじゃないかというような趣旨の発言があったかと思います。まず、それをお聞きになっているかというのと、あと、これはおそらく菊地さんの私見であったんじゃないかと思うんですが、市として、この発言についてはどのように捉えられているのか。

市長： 要は、日常的な健康づくりの話と、どういうふうに地域交通をちゃんと整備していくか、あるいは、地域交通というか、コミュニティ交通を含めた市民の足を確保していくかは別問題ですので、それを一緒にくたにしちゃうとおかしな話になるかと

思いますので、それはきっちり分けて話をしたいと思います。

ただ、一般論として、山、坂が多くてといったところは健脚なことが多かったり心肺機能が高かったり、そういうのは、長崎のところなんか、すごい因果みたいな話は一般論としては聞きますけど、それは健康づくりの話ですよ。市というか、私としては、地域の足をどう確保していくかはとても重要な課題で、コミュニティ交通をどうやって、多様な手法でとっておりますけれども、どういう手法でどう解決していくかは市にとっても最重要課題の一つだと思っていますから、しっかり検討していきたいと思っています。

記者： わかりました。

《職員向け市長年頭挨拶について》

記者： 今日の午前中の市長の年頭訓示の中で、信頼関係とかコミュニケーションを大事にした分業のあり方を見直すというくだりがあったんですけども、これは制度的に、市として分業体制のあり方をもう一度検討し直すというような意味合いなのか、ご自分の仕事も考えて、職員に対する心構えとしての呼びかけだったのか、どちらになるのでしょうか。

市長： 何か体制を変えるという話ではなくて、私もそうなんですけど、今やっている仕事の中で、いわゆる自分が限られた時間の中で、ある意味、どこを大切に情報収集し、ある意味、どれを捨てるかと言ったら表現はよくないですけども、取捨選択をしていかない限り、いい仕事はできないのではないかという思いです。ですから、それは私のみならず、全ての職員に言えることだと思いますし、やはり私たちは宣誓をして、市民に対して効率的な執行を心がけるというのは、市民に対して約束をしているわけで、そういった意味での問い直しは絶えずやっていかなきゃいけない、そういう思いでそんな言い方をさせていただいたわけです。

記者： ありがとうございます。

《副市長の体制について②》

記者： 先ほどの副市長2人体制の3カ月間なんですけど、担当としては、どういう分け方でいこうかというのは決めておられると思うんですけど、どういう分け方になっているんですか。

市長： それは、後ほど情報提供でもよろしいでしょうか。

記者： いいです。

《憲法改正について》

記者： すみません、せっかくなので追加で。市政と関係ないんですけど、国政で言うところ、今年は自民党が憲法発議を目指すことが大きなトピックになってくるのかなというのは感じたんですけども、憲法改正について、改めて市長ご自身のお考えを聞かせていただければと思うんですけども。どういうふうに見ておられるか。

市長： 何度かこの質問あったと思うんですが、いつも一貫して言ってきたのは、やっぱり国民的議論が深まっているかがすごく大事で、法律の話をするのと、憲法の話をするのはものすごく違いがあるので、そういう意味では、国民的議論がほんとうに熟している中で国会で並行してやっていかないと、おかしな話になるんじゃないかと思っているので、とにかく国会での議論が進む中で大いに、私自身もそうですし、国民一人一人が、やっぱり憲法についてよく考えることがないといけないのではないかと考えていますので。

記者： 今の現状だと、国民的な議論はまだ、国会の勢いに比べて、やや低いという……。

市長： と思いますね。正直、そう思います。憲法の話、してますって言ったら、僕ら、飲みながらしてませんもんという。そんな話になってないですから、やっぱりもっと……。

記者： 居酒屋で話題になるぐらいのレベルまで来ないと……。

市長： だと思います、僕は。やっぱり、これ大事だよねという話で、普通に憲法の話、「ちょっと真面目だけどいい？」みたいな、それぐらいの話がないと、憲法議論っていけないんじゃないのかなと思いますね。

記者： 自民党は今年出そうという方針でいるようなんですけども、そうすると、スピード感としてはどうですか、それに関しては。

市長： どこかで必ず、このぐらいの議論を開始して、このぐらいでというタイムセットはあってもいい話だと思いますし、それについては別に異論ないんですが、それに向けて、じゃ、みんなでどう努力するということがついていかないと、政治家だけの議論で憲法が決まっていくのは誰も望んでないと思いますよ。憲法改正を目指す人たちもそうだし、いじらなくてもいいんだという人たちもそうでしょうし、全ての人たちがそう思っているんじゃないですかね。

記者： どうすれば国民的な議論は高まるというのは……。

市長： やっぱり両方だと思いますね。政治家の努力と、有権者も知ろうとか考えようとかという両方の努力がない中で、この話は成り立たないと思いますから、決して

政治家のせいにするのではなく、あるいは有権者、関心が無いからというような、そういう風潮にならないで、まさにお互いの共同作業なんじゃないかと思います。

記者： わかりました。

司会： いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了いたします。ありがとうございました。

市長： ありがとうございました。

(以上)

この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理したうえで掲載しています。

(お問い合わせ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)2355